

平成 29 年度 第 2 回岸和田市生涯学習審議会 会議録

会 議 名	第 2 回 岸和田市生涯学習審議会
日 時	平成 29 年 10 月 27 日 (金) 午後 5 時 00 分～6 時 15 分
場 所	岸和田市立公民館 講座室 4
出席委員	松岡会長、大畑委員、澤委員、西川委員、永本委員、草山委員、濱崎委員、西村委員、松谷委員、上月委員、楠本勝委員、木村委員、以上 12 名
欠席委員	松端委員、柳川委員、中尾委員、楠本等委員、小川委員、藤井委員 6 名
事務局	濱上生涯学習部長、西尾生涯学習課長、津田スポーツ振興課長、玉井図書館長、東調整参事、長谷川担当長、嶋囁託職員
傍聴人数	0 名
次 第	1 開会 2 社会教育関係団体への補助金の交付について 3 生涯学習基本方針（素案）について 4 その他 5 閉会
配布資料	平成 29 年度社会教育関係団体への補助金交付について 岸和田市生涯学習基本方針概要（案） 岸和田市生涯学習基本方針（素案）

(会 長) 案件2 社会教育関係団体への補助金の交付について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料に基づき説明。

(会 長) 各団体への市の補助金交付について何かご意見ありますか。ないようでしたら、議事に沿って進行をしたいと思います。案件3 生涯学習基本方針(素案)についてです。前回第1回審議会のときに素案を皆様に読んでいただき、難しい、抽象的、もう少し易しい言葉で説明できないかとか様々なご意見をいただきました。事務局、委員の方も入っていただいた基本方針策定作業チームで、どうすれば生涯学習の基本の枠組みを作ることができるかと協議を重ねてきました。まだ抽象度が高いというご指摘があるかも知れませんが、これを元に具体的な事業・活動をこれから岸和田に根付かせていくとご理解いただければ幸いです。内容については事務局より説明をお願いします。

(事務局) 岸和田市生涯学習基本方針概要(案)(以下「概要案」という。)は3ページあります。まず1ページ目をご覧ください。図式化したものは、岸和田市のこれまでの取組みをこちらに記載しています。第一次岸和田市生涯学習計画、第二次岸和田市生涯学習計画、岸和田市自治基本条例、第四次岸和田市総合計画等を踏まえながら、「学習の自由から生まれる岸和田市の自治と希望」という生涯学習の理念があります。ここから、これからの生涯学習として4つの提案があります。本市生涯学習の特徴としては公民館が19館あり、各小学校と同様に誰もが歩いていける範囲で気軽に行ける場にあります。小学校は24校あります。あと体育館や図書館、自然資料館等の生涯学習施設も充実しているのが本市生涯学習の特徴です。これからの生涯学習についてはさきほど申しました4点を中心に市民自治都市を形成する、ESDとしての生涯学習があります。用語解説は①から⑥と※印で説明しています。次に2ページ目ですが、本基本方針は教育基本法の生涯学習社会の理念、第一次・第二次岸和田市生涯学習計画の精神を引き継いでいます。基盤となる考え方は、「学習の自由と多様性が、岸和田の人・コミュニティを創り、まちの希望を紡ぎだし、〈市民自治都市〉を形成する」というものです。現代社会は、様々な問題があり複雑に重なり合っているのが特徴です。「持続可能な社会づくり問題」まで、実に多くの解決すべき課題があります。市民自治の活性化とその前提となる人々のつながりや協働が必要です。生涯学習はゆるやかにつながることが大切です。そのつながりが他のコミュニティとつながり続けること、これが「学び+実践+ネットワーク」、インクルーシブ・コミュニティということを示しています。「学び+実践+ネットワーク」が活性化するカギは、あらゆる人・行為・態度・価値を柔軟に受け止め包み込むことのできるコミュニティ、だれでも出入りできて排除しないコミュニティです。様々な考え方があり、実践の団体、学びの団体、それぞれの団体を互いに許容・受容するコミュニティがインクルーシブ・コミュニティです。このインクルーシブ・コミュニティをたくさん作っていくことが生涯学習振興方策において非常に大事なことです。本方針では、「学び+実践+ネットワーク」に不可欠なインクルーシブ・コミュニティづくりに向けて、その整備を企画する「社会教育支援チーム」(仮称)の創設を提案します。行政、市民・住民、専門家などで構成される社会教育支援チームで、インクルーシブ・コミュニテ

イづくりを推進するフラッグシップ事業(旗ふり事業)を考えていくという内容です。また、インクルーシブ・コミュニティづくりの重要性を周知すると共に、旗ふり事業を推進します。NPO、企業、町工場、福祉事業所、農協、漁協などと高校生や若者が連携して運営するプログラムや、岸和田市が世界に誇る「だんじり祭り」を活用したネットワークづくり企画などが想定されます。フラッグシップ事業を柱にしながら、多様な人々が集い、自らの関心から始まる自由な学習活動や実践活動と社会問題解決の動きがつながり続けるような仕組みを創造していくということを考えています。図は今の話をわかりやすく図式化したものです。

(会 長) このような立場のもとですれば基本計画は着実に進むだろうと思います。これについて何かご意見等があればお願いします。「インクルーシブ・コミュニティ」というカタカナが入っている点が、違和感があるのではないかと思います。この基本方針は「インクルーシブ・コミュニティ」とは何だろうかということを提案しながら、岸和田らしいコミュニティづくりを目指していこうという意図も含まれています。ご理解いただきながら、政府レベルで頻繁に使うようになってきている「インクルージョン」という言葉も、先駆けて岸和田市が進めていこうというところを期待していただければ幸いです。

(委 員) 全体を読んでまとめてきたので読ませてもらいます。すべて同感だと思いました。全面的に共感できる内容であり大賛成です。今回はかなりわかりやすくまとめられていて、市民が読んでも理解できる内容だと思います。とりわけ「学習の自由と多様性が岸和田の人・コミュニティを創り、まちの希望を紡ぎだし、〈市民自治都市〉を形成する」という考え方を基盤として、展開していることにおおいに共感をおぼえます。岸和田市は「市民自治都市」を掲げ、「自治基本条例」を制定していますが、その精神が十分に活かされていないと常々感じています。この基本方針は市民自治都市を形成するための生涯学習の役割を明らかにしたものであり、自治基本条例の生涯学習分野での具体化といえるでしょう。その意味で生涯学習部局だけではなく、市の行政全体で共有していただきたい。また市の各部局でもこのような形での基本方針を作り上げていただきたいと希望します。私は7月に伊丹市立図書館の視察に参りました。伊丹市立図書館は誰もが気軽に訪れて交流ができる公園のような図書館という基本コンセプトを掲げて運営しています。一階の交流フロアには植物を置き開放的な空間を演出しています。そして市民の誰もが参加できる交流フロア運営会議を毎月開き、参加した市民のアイデアをもとに市民主体のイベントを年間200回も繰り広げており素晴らしいと思います。この取組みは、この基本方針で述べられている「学び+実践+ネットワーク」を活性化するインクルーシブ・コミュニティの一つの形だと思います。是非岸和田市でも参考に取り入れてもらいたいです。ただ、この基本方針に沿って進めるのは簡単ではないだろうと思います。行政の側も市民も現在の生涯学習施策や運営方法等を大胆に見直す必要があるでしょう。そのためにも生涯学習部の各職場及び生涯学習にかかわる市民がこの基本方針を学び論議を深めること、そして現在行われている施策の内容や運営方法等をこの方針に照らして見直し、改善する作業が必要です。それらを抜きにして新たな具体的な施策を考えても従来の域を出ないのではないかと思います。その意味で生涯学習施策など具体的に盛り込

んだ基本計画策定も課題だと思いますが、まずさきほど言った作業から進めるべきではないか、そういう意味でそれは特別急いで進めなくてもいいのかというふうに感じました。

(会 長) 生涯学習に関係する職場、つまり社会教育、教育委員会、基本方針では学習を支援するのは教育委員会だけではないのですが、行政の人たち、あるいは主体的にこの生涯学習を進めようとする市民の人たちが、この基本方針を素材にしたり照らし合わせながら、まず学ぶ、そして現在どんなことが行われているのか、どこを改善すればいいのかを考えていくことが大切だろうということでした。ありがとうございました。

(委 員) わかりやすくしていただきありがとうございました。こちらの素案は最後の用語解説までを入れて全部で基本方針ということによろしいですか。こちらの3枚の概要案はどのような使い方をするのですか。

(事務局) 概要案はこの全文があるなかで簡潔にまとめた分です。

(会 長) この概要案が承認いただければ案が外れて、その後、市民の意見をお聴きして、どういう枠組みで基本方針ができているのかをご理解いただきます。その際「インクルーシブ・コミュニティ」とか「学びのコミュニティ」とか言葉が入っているので、その部分を簡潔にわかる用語集も入れました。つまり市民の方や行政職員もまずはこの概要版を見ていただいて、枠組みを理解していただく。その上で、これはどういう意味なのかは、岸和田市生涯学習基本方針（素案）を読んでいただくとより詳細に書いています。

(委 員) 基本方針（素案）の内容はよくわかりました。この素案と概要案の用語解説が全然違うので、紛らわしいと思いました。用語解説は同じ内容を載せたほうが良いと思いました。同様に、フラッグシップ事業も内容が同じではないのです。

(事務局) この概要案には用語解説がありますが、基本的には岸和田市生涯学習基本方針（素案）から抜粋した内容を載せています。

(委 員) 岸和田市生涯学習基本方針（素案）にも用語解説があり、「インクルーシブ・コミュニティ」はこういうものだというふうには書かれています。それが概要案と同じ説明であるほうがわかりやすいです。それと概要案は、本当に岸和田市生涯学習基本方針（素案）の内容を簡潔にまとめた内容なのかと疑問があります。概要案に疑問があり、用語解説も基本方針（素案）の内容と同じではないことと、「本市生涯学習の特徴」という部分も「誰もが歩いていける範囲で、気軽に行ける場としての役割を果たしています」とありますが、どういう場なのですかと聞きたくなくなりました。ここの内容がわかりにくかったです。

(会 長) 今のご指摘は概要案の1枚目の内容と2枚目の基本方針概要、ポンチ絵、岸和田市生涯学習基本方針（素案）の内容のトーンが違ったり、書き方が違うのは誤解を招くのではないだろうかというご指摘です。素案から順番に作ったので、3枚の概要案は最後にまとめて作った形です。より市民の方にわかりやすく、行政用語もあり、行政の人にとってわかりやすい表現も加味しながら概要案を作りました。用語解説についてはご意見をいただいて、私と事務局に一任していただき適切に修正していく方向でよろしいですか。その上で皆様の意見をいただければ幸いです。この用語解説は誤解のないように再度修正させていただけたらと思

ます。どちらかにしかない用語解説もあるので、整合性をつけていきたいと思いますがよろしいですか。概要案についてうまくまとめていただいたように思います。本市生涯学習の特徴が基本方針(素案)ではあまり書いていないのですが、加えていただいている部分があり、その妥当性も改めて丁寧に見ていきたいです。ただ「本市生涯学習の特徴」を具体的にどう変えればよいという案があれば、言ってもらえればと思います。ほかの委員の方も、この文言を具体的にこう変えたり直したほうがいいのか、この文言を入れたほうがいいのかご意見があれば事務局で、ゆっくり考えてご提案いただければと思います。その上でさきほど申し上げた作業チーム、事務局で再度検討をして修正させていただきます。

(委員) この概要案1ページに記載の『「だんじり祭り」を活用したネットワークづくり』は非常に素晴らしいことです。岸和田・泉州のだんじりはたくさんありますが、この祭りは1年に2日の1回だけという人もいれば、世界に誇れる祭りという評価もあります。様々な評価があると思います。私達もこの2日のお祭りをただ一過性に終らせることなく、若い青年団の活力やエネルギーを、テレビやマスコミを通じて日本内外にPRできる絶好の機会です。これを活用した企画ができれば本当に素晴らしいものができるのではないかと感じました。それと生涯学習基本方針(素案)8ページの真ん中あたりにインクルーシブ・コミュニティが、理念倒れに終わる危険性があることを書いていますが、それを理念倒れに終らせることなく具体化していくためには、財政的な基盤がなければ何もできないと思います。従来の社会教育・生涯学習関連予算に頼りすぎることなく、ほかの行政の財源や民間資金の活用、または互助的な資金づくりも必要になるでしょうということで、提案は危険性とそれを具体化するにはこういうものがあるのではないかとされているのだと思います。これをするとすれば、行政の1部門だけではなく市の総合的な部門の理解も必要ですし、協力支援体制がなければ難しいのではないかと懸念があります。ですから、行政と市民・住民、事業所が協力し合っとなってはいますが、これは将来の課題として社会教育や健康福祉部をどうするかとか、そういう問題までには至らないと思いますので、こういうことに留意していけたらいいのではないかと思います。

(会長) まずだんじり祭りをどう活用していくのかは、これからの具体的な施策・活動次第だと思います。「活用する」という表現が果たしていいのかとやや怖い感じはします。例えばボランティアを活用するという言い方をするとボランティアの方が気を害するように、もう少し違う表現もあるのかなあと思っています。ただ期待をしていることはしっかりと打ち出すべきだろうと思います。インクルーシブ・コミュニティが理念倒れに終わらないために、行政内部あるいは社会教育が今ここを所管していますが、本来ならば一般他の行政が理解を深めて、インクルーシブ・コミュニティづくり・ネットワークを進めていくということが期待されます。口では行政部局間連携が必要だとか、総合的な施策が必要だとか言っていたとしても、できない理由が多々あって、ここに至っては、まだまだ連携が足りないというのはインフォーマルには思っています。ただ今回インクルーシブ・コミュニティやネットワークをつくろうと思ったら、改めてもう1回横のつながりや助け合い、相互性が必要だというこ

とを、これからしながら実際にアピールしていく。例えば商工会議所の状況とか、ビジネスを起こそうとするセクション、福祉関係の人たちに具体的にあなたたちに来てもらわないとインクルーシブ・コミュニティできませんからってことをどこまで言えるか。今回インクルーシブ・コミュニティづくりを具体的な事業にしていきながら、様々な方向に具体的にヘルプを出しながら連携してもらうような展開になるのではないかと思います。

(委員) さきほどの委員の話につながる感じで意見を言わせていただきます。ここでフラッグシップ事業（旗振り事業）が岸和田市はだんじり祭りが一番前面に出ています。事実そのような感じがするのですが、年2日か3日の祭りだけで終わり、その特徴だけを捉えて岸和田市の生涯学習につながると、すごく見落とししているような感じがします。岸和田市はかなり高齢化率が高いです。そして今産経新聞が一生懸命論説を展開していますが人生100歳時代です。もうこれからは70歳、80歳は高齢者ではないです。もう100歳まで生きる社会・時代になってきているなかでは、生涯学習で一番大事なのが高齢者がいかに元気に長生きできるか、楽しく過ごせるか、そういう力点がまったくくないような感じがします。それとこの補助金交付一覧を見てもわかるように、青少年・子ども・ボーイスカウト・ガールスカウトそしてあとは障がい者、これは個性がありいいと思いますが、高齢者は全く入っていないのです。生涯学習活動は高齢者に力点をいれ、そしてこの市の特徴は高齢化率の高い市です。そのあたりの意識が薄い感じがして仕方がないのです。今政府でも福祉関係の社会保障関係費用がずいぶんかさんできてそれを何とかしなければいけない、そのためには元気な高齢者、長生きできる高齢者対策をどのように練ればいいのか議論がたくさん出ているなかで、岸和田市はだんじりだけでいいのですか。そんな感じがします。

(会長) それは私のほうで話をさせていただいてよろしいですか。だんじり祭りという岸和田らしいイベントや行事、特徴的な岸和田を代表する活動、これを実は学習やネットワークの場に変えることができることをここでは申し上げたかったのです。この祭りがたった2日間で終わる花火のようなものではなくて、準備段階、広報活動、だんじりと岸和田という町をつなげていくことができる学びの場を展開できたり、あるいはそこで青年団を再組織化していったり、新しい住民たちを含めて理解を深めていく活動が展開できる可能性があります。こういう一見生涯学習と関係なさそうな楽しい活動や意義ある活動が学びを展開していくことを意図してここでは例示としてあげています。単なる例示ではなく、もっと他の例示があれば良かったのかも知れません。とりわけこれからの人口減少社会のなかで人口構造の変化は大きな変化です。高齢者とされていた65歳から80歳代、あるいは90歳代ぐらいの人たちがどういう生き方をするのかによって、この町の雰囲気は変わります。おっしゃるとおりです。したがって、その人たちを大切にするフラッグシップ事業も考えられます。ここではそういう人たちを無視しているわけではないし、もともと持続可能な社会づくりは高齢期の人たちが主役になっていく活動です。よくこれを勘違いして未来のことを考えるのは子どもたちに託せとありますが、それは大間違いで、それは10年、20年で実現できる社会ならば子ども

たちに託せばいいのです。持続可能な開発という矛盾したゆっくり周りを維持しながらも経済成長しましょう、発展しましょうといった矛盾した運動は、簡単には実現しない。これは世代を越えてつないでいかないと社会の体質は変わっていかないと書いているつもりです。そういうものなので、高齢期の人たちの役割はかなり大きいのです。そのことが素案に書いているのですが、概要にも高齢者を含む全世代がという形で書いているつもりです。この基本方針を具体化する段階ではややいくつかがフラッグシップ事業のバランスをとることが求められると思います。誤解を招くのであればフラッグシップ事業概要に用語解説が必要です。

(委員) それが一番気になっていたところです。フラッグシップ事業であれば、上に書かれている内容のなかでNPOは一例だと思います。上に書かれている社会教育支援チームの力量を高めるため、市民・住民の多様な学習と地域の活性化が重なるような活動、これが「フラッグシップ事業（旗ふり事業）」の活動です。そうしたら他にも様々な活動が出てくるとは思います。が、「だんじり祭り」だけを一例としてあげてしまうとフラッグシップ事業がイコールお祭りだと誤解される可能性があると思います。

(会長) 基本方針素案 11 ページに「フラッグシップ事業を創成します」とあり、その下に枠で4章の要約があります。その第一段落目にフラッグシップ事業の定義があり、例えばこういうものがありますという書き方をしています。ところが概要案では、わかりやすさや具体性を強調したくて、その部分だけを前に出したので誤解を招くのではないかというご指摘です。

(事務局) 先ほどのだんじり祭りですが、本市では岸和田市の観光振興計画があります。だんじり祭りを振興計画のなかではどう取り扱ったのかと、その中ではだんじり祭りは観光の中心にもつていこうという議論があったようです。ただここであとがきにすべて記載がありますのでそれを読ませていただきます。「祭礼の運営は自主運営・自主曳行・自主規制の理念に基づき運営されているため、行政の関与は側面的支援に限られます。」いわゆるだんじり祭りというのは、あくまで市民が自主的に運営して行うものであり、観光を目的にしているわけではないということはかなり議論されたみたいです。そこで書いているのは、だんじり祭りが歴史的に養ってきた木の文化・音の文化に代表される「だんじり文化」という表現を使っています。このだんじり文化は、祭礼関係者の協力を得ながら祭礼日以外にも発信することは可能です。いわゆる祭りそのものを捉えるのではなくて、だんじりのなかで様々な組織もあり、だんじり本体これは木の文化・太鼓の音の文化、それから人の文化これは地域の人結びつきを含めてだと思いますが、その文化を大切にそれを発信していきましょうという表現で書かれています。そのあたりは「だんじり文化」という表現を入れてもいいのではないかと、だんじり祭りを活用してというどうしても祭りを行っているイメージだけになります。「活用する」という表現に関しては観光振興計画のなかでもかなり異論がでました。これはあくまでも各町会あるいは各団体が、自主的に行っているところにそこまで深く観光としての関与をしてはいけないということなので、そのあたりは観光振興計画のなかでの論議も参考になるかと思いましたので説明させていただきました。よろしくお願ひします。

- (会 長) 今のご意見はだんじり祭りの文脈について、もう少し他の部局を配慮して表現を変えるという事務局らしいご意見だと思います。先ほど委員の方が言われたのはこのだんじり文化も確かに岸和田のフラッグシップ事業にふさわしいキーワードに見えますが、違うフラッグシップ事業もありえるだろう、そのことをこれからゆっくり協議していくということであまり強調しないほうがいいのではないかというご意見です。この点いかがでしょうか。
- (委 員) 私も賛成です。私も産業振興ビジョンやだんじりのことで議論したことがあります。市民自身がだんじり以外何もないと思込んでしまっていたり、だんじり祭りそのものが走っているイメージが柄が悪いとかいうことが中心になって、特に経済活動というと岸和田・泉州は逆にマイナスイメージだと業者からも聞かされたりします。だんじり祭りという地域のコミュニティは素晴らしいし、私も様々な形で関わっていますが、岸和田というとすぐにだんじりを強調しすぎるのはいいのかどうか、活用という表現は避けたほうがいいと思います。
- (会 長) ここは考えさせていただきたいです。それにしてもフラッグシップ事業の用語解説のところが特定のイメージを強調しすぎてるので、ここは書き方を変えましょう。このあたり変えさせていただきたいと思います。
- (委 員) そういう傾向のなかで一つ申し上げたいのは、今岸和田市の現状、市内に約 100 町があります。そのなかでだんじりを所有している町は半分もないのです。所有している町は町会費の 7、8割ぐらいがだんじりに費用がかかっており、そして福祉・社会福祉活動、そういう面は、しわ寄せでかなり弱い。しかし未所有の町は、社会福祉活動が活発です。そういう町があるのが現状です。だから、すべてだんじりだと推していかれるとだんじりを所有している町の福祉活動は貧弱でなかなか育たないのです。そのあたりも市民全般に社会福祉活動が平等に与えられるようにしないといけないと思います。
- (会 長) それに同意されている方もおられるようですし、そうでない方もおられるでしょう。この場でどう是正するのかという会ではもちろんないと思います。ただだんじりをしている集団は実践コミュニティです。これと学びのコミュニティが、例えばどんなふうにつながっていくのか。あるいは、だんじりの実践コミュニティがある町会とない町会がある。それらがつながって、例えばこれからどう福祉活動をしていくのかをテーマにして考えていくことができる場づくりがこのインクルーシブ・コミュニティです。出入りも自由でありあまり圧力をかけすぎない。こうでないといけないと言うのではなく、情報交換をしていきながらお互いが相互理解を深めたり、だんじりの文化もそういう文化のなかで 100 町にわたる人たちがだんじりの事も考えていこうかという学びができるかも知れない。逆にだんじりにかなりのエネルギーを注いでいるところがさきほど行政は側面からの支援と言ったけど、企業はどういう関係で関わってくれているのかとか、色々確認しながらお金の配分を少しずつ変えていくことも必要だろうという議論があるかも知れません。高齢期の方を支援する団体はどうなっているのかと言いだめると色々あります。でもこれを閉鎖的なコミュニティではなくて、一例ですが、社会教育関係団体への補助金を市民はどう主体的に使いたいのかシンポジウムを開いて、助成団体はともかく、もっとどういう使い道をしたらいいのかを、皆の意見を互い

に出し合おうという場を作っていくことは、実はインクルーシブ・コミュニティのつくりかたとしては重要なポイントです。つまり、ここで決定しようということではなく、互いに言い合ってみようという場をつくっていく。そのためには中立性の高い人がコーディネートする必要がある、それが社会教育関係職員だと思います。そういう人たちが各団体の中立性を保ちながら、意見をたくさん出してもらう場が今後できればいいと思います。これが民主主義の基本です。そういうことを一生懸命考えてくれるのが社会教育支援チームです。それこそ、委員の方が言われたようにこの基本方針はいったい何なのかということできればたくさんの人たちに考えてもらえたらいいなと思います。

(委員) ちょうど生涯学習推進本部で、「いきいき市民のつどい」について議論しているところですが、祭りは切っても切り離せない、そういう風土・気風がある。先日の台風で大沢町がかなり被害を被り、お亡くなりになられた方もあり、そのなかでこの2、3日ぐらいで青年会議所、だんじり関係者も含めて、一昨日は50人、昨日は100人超えで、どんどん手伝いにきてくれる。これは岸和田らしい風土です。多分だんじりによって培われたのだろうという思いを聞いていて感じます。「いきいき市民のつどい」もそういう青年団の若い人の話も聞いてみようという意見も出ています。むしろ私達も歳を重ねていき、今の若者はという歳になったのかも知れないという話しのなかで、むしろ若者の考えを合わせて聞きながら、いいものを作りたい。「いきいき市民のつどい」は一つの旗振り事業だと思っていますので、そういう人たちも含めてきっかけにしたいという意味でいうと、やっぱり文言的な使い方としては工夫が必要です。でもやっぱり切っても切り離せないで、まったく別ものというふうには捉えるのではなく、岸和田の風土に根付いているものとして、どう扱えばいいのかを皆さんで考えてみることは必要なことです。

(会長) だからフラッグシップ事業とかそれを直接運営していく社会教育支援チームは単数でなくていいのです。複数でも構いません。しかもそれは委任できるかも知れません。もう社会教育支援チームの形になっているところがすでにあって、そこを任用して、インクルーシブ・コミュニティをあなたの事業のなかで展開してくださいとお願いをするのかも知れません。いずれにせよ、このフラッグシップ事業や社会教育支援チームをどう組織化するかを考えるチームがこの先必要です。何をフラッグシップにするのか、どういうふうにして社会教育支援チームを組織化するか、これは生涯学習審議会の役割ではないと思います。もう少し実務的な部分で作業チームができて考えていただければいいのかと思いますが、そういう課題を見越すことだろうと思います。皆十分そういうことをされてるのでご意見をいただいて、それを事務局で集約していければ、より具体的なものが提示できるということになるかと思いますが、フラッグシップ事業になりそうなものは色々ありそうです。

(委員) 社会教育支援チームの構成メンバーですが、社会教育関係職員（社会教育主事・司書・学芸員・教職員等）、市民・住民、ボランティア、専門家ということで、狭い意味での社会教育、公民館というのではなく、図書館とか生涯学習部でいうと郷土文化室とか自然資料館とかありますが、そういったものを総合した社会教育支援チームをつくるということですね。

- (会 長) そうです。ただフラッグシップ事業の内容により、構成メンバーは変わってくるだろうと思います。これまでの既存のかたまりが緩やかになって、新しいかたまりができてくるのを促進していくチームですから、自分の権益ばかりを言う人が出てこられたら逆に困ります。もう公民館はこれしかやりませんか、図書館はこれしかやりませんか、これしてくれないとメリットないですと考える人たちが集まってしまうと、社会教育支援チームとしては厳しい船出になるでしょう。だからそうではない、自分自身の専門性を、忘れ去る・学び捨てる、英語では「unlearn」と言いますが、学んだことを少し自分の特権とか利権とか一度忘れて、それで面白いものをつくっていきましょうというムードをつくるのが、社会教育支援チームの組織化では必要だと思います。
- (委 員) おおいに賛成です。これは公民館とか図書館ではなく生涯学習を総合的に捉えて、それこそインクルーシブ・コミュニティというか、行政が柔軟にならなければインクルーシブ・コミュニティはできないわけですから、そこは第一歩になったと思っています。そこは是非きっちりしてもらえるような形になればいいと思います。
- (会 長) インクルーシブ・コミュニティは言いづらいですから、福祉関係の人たちは「インクル・コミュ」みたいな「インクル何とか」という言い方をしているようです。インクル・コミュをつくりましょうという言い方をできるといいですね。そのほか何かご意見があればお聞かせいただきたいです。
- (委 員) さきほどから出ているように、だんじり祭りは参加率というか携わっている人は約3割と聞いているので、あまり鮮明に出すと参加していない人のほうが多いので、参加している人がえらいみたいに思われると反感を買うので、使う方法としてはいいですが表現方法は丁寧に考えたほうがいいと思います。
- (会 長) 私もそこはまずいかなと思いました。ありがとうございます。その他ご意見ありますか。
- (委 員) 概要案の「これからの生涯学習」という部分で、Ⅰ～Ⅳあげていただいている理想だと感じました。ただそれを実現するためには、社会教育支援チームでやりましょうと声かけしても動かないので、そのあたりを動かす工夫を考えていかないと、立ち上げたけど動かない現実が多いので、メンバー構成をどうするのが、次の段階として非常に大切なところだと思います。
- (会 長) ほんとにそのとおりだと思います。
- (委 員) さきほどの話に出た伊丹市立図書館は、それだけで皆が集まってきます。それがここで書かれているだんじり祭りになっているのだと思います。そういうものがあるからこそ人が寄ってきます。
- (会 長) そういうふうにできればすごく素敵なものになると思います。その糸口をどう作っていくかは社会教育支援チームなり、フラッグシップ事業を何にするのかは非常に重要なポイントです。そういう意味では今後この基本方針が出たあと、第一歩で何をするのかというところを是非事務局が本気になって考えていただくことになるかと思います。絵に描いた餅にしないようにということは大切なポイントです。

- (委員) 今言われたようなことを考えて、社会教育支援チームのメンバーがここで書いている趣旨をもっと深く理解できなければ、逆に押し付けみたいになってしまい、この精神から離れると思いますし、一つのキーワードだと思うのが「自由」ということです。その観点からもう一回全体を見直すというか、もっと広く市民学習の活動も含めて、どうしても自分たちのグループだけで集まって自己満足な部分もあるし、市民自身もこれでいいのかという部分も含めて、互いに検討し合う一助になればいいなあと感じました。
- (会長) はい。ありがとうございます。ではこれはおおむねこの基本方針で詳細についてご意見があれば、事務局に言っていただくということで微修正したいと思います。これでよろしいですか。3の「生涯学習基本方針（素案）について」まで終わったということよろしいですか。4の「その他」について事務局で何かありますか。ないようでしたらこちらで引き受ける議題はここまでということで事務局にお返ししたいと思います。
- (事務局) それでは今後の予定ですが、審議会は今年度あと1回を予定しています。また今回いただいたご意見を踏まえて生涯学習基本方針（素案）をパブリックコメントの手続きにうつりたいと思っています。それでは閉会のあいさつをお願いします。
- (会長) 僭越ですが、皆さま長時間にわたりましてありがとうございました。この素案づくりを通して感じたことは、もっと本当は岸和田の人たちと対話しながら作れたら良かったのになあということでした。作業チームのメンバーとは一生懸命議論できましたが、審議会の皆さんとは丁寧な議論をする時間がなかったので非常に残念でした。今後も岸和田市の生涯学習についてご縁を感じていますので、皆さんと様々なところでお話ができたらいいなあと思っています。次回、第3回があります。そのときにこれからの更に発展するつながりを皆さんと持てればと思いますので、本当にこれからもどうぞよろしくをお願いします。どうも有難うございました。

閉 会